

令和 6 年度 第 2 回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：令和 7 年 3 月 7 日（金） 午後 1 時 30 分～

場所：恵那市役所 災害対策室 A・B

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 副市長あいさつ

4. 報 告

（1）令和 6 年度恵那市市民意識調査について 資料 NO. 1

（2）令和 7 年度主要事業の概要について 資料 NO. 2

5. 議 事

地方創生関係交付金事業の効果検証について 資料 NO. 3～資料 NO. 4

6. その他

・次期総合計画の策定について 資料 NO. 5

・次回会議 令和 7 年 8 月頃の開催予定

7. 閉 会

1. 開 会

■事務局

これより令和 6 年度第 2 回恵那市総合計画推進市民委員会を開催する。私は本日の進行の企画課長の和田です。よろしくお願いします。

名簿 No.3 の社会福祉協議会の紀岡委員、No.8 の職業安定所の田中委員、No.11、教育委員会の村松委員は欠席の連絡を事前に受けている。No.1 の市川委員も急遽欠席。

本日の会議は恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき公開とする。会議録も公表する。

2. 会長あいさつ

■会長

本日も円滑な議事の進行に協力をお願いします。

3. 副市長あいさつ

■事務局

副市長から挨拶する。

■副市長

お忙しい中出席ありがとうございます。私事だが、3 月 31 日に退任する。12 年間にわたりありがとうございました。

市議会が始まった。令和 7 年度事業の予算審議をしている。令和 7 年度は、最近でも大きな予算規模になっている。物価高、人件費高騰もあるが、大きな事業がスタートしてきた。継続ではリニア関係、また、恵那峡スマートインター開業に向けての事業、新たに子育て事業は、重点的にやっているものを拡充している。他にも、避難所の中学校のエアコン設置は、小学校は既に令和 6 年度に設置したが、令和 7 年度は中学校もやる。中学校のエアコンを全てやるのは県下でも早い方だと言われている。今後も事業を着実に進めていくし、市民の期待に沿えるよう努める。

4. 報告

(1) 令和6年度恵那市市民意識調査について(資料NO.1)

■事務局

報告事業1について事務局から報告する。

[事務局から資料に基づき説明]

■事務局(進行)

質疑はあるか。なければ次に進める。

(2) 令和7年度主要事業の概要について(資料NO.2)

[事務局から資料に基づき説明]

■事務局

質疑はあるか。

■委員

雇用対策についてお話しいただきありがとうございました。

学校で職場体験をやっていると思うが、それとの連携はどうなっているか。

■事務局

小中学校で「お仕事体験」という授業を実施している。主に、恵那ビジネスサポートセンターで企業の取りまとめや紹介しており、行政も一緒に取り組んでいる。

■委員

もう一点。小学校の屋内運動場に空調が整備されたことについて。先日、初めて試運転のところにお邪魔したが、すごく快適だった。令和7年度は3つの中学校で整備することだが、恵那南中学校の体育館についても、全体の改修の中で空調は整備するのか。

■事務局

その通りです。

■委員

プレミアム付き商品券について。今、物価高で主婦は悲鳴を上げている。プレミアム付き商品券はみんなが楽しみに待っているので、よろしく願いたい。

もう一つ、こういう機会に感謝を述べたい。コロナが流行ったとき、「カッとくチケット」という事業があった。この事業のおかげで倒産せずに済んだ店が多くある。うちもそ

の一つ。みんな店を閉めてしまい商品が売れなくなり、作ることができない。社員がいるけど仕事がないが、給料は払わなければいけないので、銀行に頼らざるを得ない。それがどれだけ続くかと不安に感じていた。

そんなときに、「カッとくチケット」が現れて、とてもありがたかった。中津川市や瑞浪市の私の親戚は、「中津川市、瑞浪市はそんなことやってくれない。恵那市はすごい」と言っていたし、他にもそういう声がたくさん聞かれた。本当にありがたく、感謝している。

■事務局

ご意見として参考にさせていただきます。

他に意見はあるか。

なければ、これより議事に入る。議事進行については服部会長にお願いする。

5. 議 事

地方創生関係交付金事業の効果検証について（資料 NO.3～資料 NO.4）

■議長

今回の議事は1つ。事務局から説明いただく。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長

意見、質問があれば。

■委員

未来キャンパスについて。13 ページのグラフは衝撃的だと感じた。こういうデータも初めて見た。やはり、女性向きの目線が大事だと思う。

また、学生向けにやっているのは、とてもすばらしい事業だと思う。そのうえで、最近では企業のデスクワーク、ネットワークワーキングが流行っている。私の子どもも恵那に住みながら車のデザイン、設計の仕事をしている。企業も変わってきていると思う。

男性よりも女性の定住、そのための働き場所が生まれてくる必要がある。消滅可能性都市の話もあるし、女性というのがキーにならないかという感じがする。

■議長

女性の職場づくりについて何か取り組みがあれば、ご紹介ください。

■事務局

消滅可能性都市の視点は、委員のおっしゃる通りで、29 歳から 40 歳ぐらいの女性の転出に着目しており、それが 50%以上のところが消滅可能性都市に認定された。これについ

では前々から認識しているが、特に恵那市は、女性だけでなく男性もそれに増して転出超過が高い。女性の視点もあるが、男女問わず恵那で働ける場所を創出することは考えている。サテライトオフィスなどは恵那にしながら仕事ができるので、そういったものの推進をしている。もう少し目に見える形で事業を展開していきたいし、特に起業の支援には力を入れたい。

■委員

リニアの開業も見据えて、例えば企業の商品開発部門などの1つの部門だけでも良いので恵那に誘致できると良い。工業団地も良いが、頭腦的なところの集積の場づくりも今後必要ではないか。それができればネットワークもできると思う。週に1回はリニアに乗って東京で会議などということもできると思うし、ぜひ検討していただきたい。

■事務局

参考にさせていただきます。

■委員

今の意見に付け足す。恵那、中津川の母親で家から出られない人、例えば送迎があったり、子供が小さい、学童に入れられなかったという理由で家にいざるを得ない母親と企業をマッチングするサービスを仲間と一緒に作っている。

会社で受けて、母親たちをチームで集めて家で働いてもらうというのをやっている。去年の9月から始めて、半年ぐらいお母さん方と面接をしてきた。その中で、何人か未来キャンパスでデザインなどを学んだという人がおり、すごく良かったと言っていた。内容も良く自信に繋がり、クラウドソーシングにも登録してみたという話があった。とても良いサービスだと思う。

一方で、実際に働くという一歩を踏み出せない人が多い。クラウドソーシングだと相手の顔が見えないのでハードルが高い。地元企業に取材に行くような仕事ならやりやすいので、そういうのができないか考えている。地元でちょっと出かけて取材して帰るというのをやりながら自信を付け、最終的にはリモートワークになっていくようになると良いと思っている。横のつながりで、他の働いているお母さん方と励まし合いながらやるのが良いと思う。市の事業としては難しいかもしれないが、そういった横のつながりが醸成できると良いと思う。

■事務局

15 ページの緑色の表が令和6年度に実施した講座で、意見にあったような取り組みを行っている。働きたいお母さん方にITを学んでもらった。企業がちょっとしたチラシやウェブサイトを作りたいが専門業者に頼むとお金がかかるといふ場合に、まだ実績はそれほどないがチャレンジしたいという人とのマッチングにここで取り組んだりしている。他の委員もおっしゃったように、女性にもこういうところでスキルを磨いて仕事に結びつ

けていただければと思っている。令和7年度はもっと力を入れてやっていきたい。

■議長

このイベントの属性分析やアンケートでのニーズ聴取などはやられているか。

■事務局

毎回アンケートを取っていて、満足度は100%ぐらいで非常に高いが、課題は「次に繋がる」というところだと思っている。単発で終わらず企業に結びつけるというところ。そこを令和7年度に取り組みたい。

■議長

フォローアップなどいろいろな形での支援が続いていくと良い。

■委員

若い女性が恵那から出て行ってしまうということについて。どこの町でも課題だと思う。ちょうど息子世代が大学を出たところで、同級生の女性も名古屋や東京にとりあえず行く。

しかし、行くと生活は大変で結局帰ってくる子も多い。女性が勤めやすい場所も必要だが、今あるところでも、女性が勤められるところはたくさんあると思う。恵那に在ることの魅力が伝わるといいと思う。

■議長

東京での生活と恵那での生活はそれぞれメリットがあることが分かると良い。お金だけではないメリットがあることを表現した方が良いというご意見。検討いただきたい。

■委員

「恵那市たべる推進計画」について。発酵のまちを目指すというのは、私も色々と参加してみて、すそ野が広いと感じた。恵那は食品もおいしいものが多いので、ぜひまちづくりに生かしていただきたい。

「安心して暮らせるまち」について。交通ネットワークでは、夜になるとタクシーが少ない。電車で帰ってきてからの足がなかなかないのはもう少し何とかなると良い。

■議長

その他ありますか。

■委員

民生委員について。今年は3年に1回の改選が12月にある。どこでも人がいない。なり手がない。それですごく困っている。このままだといつ辞められるか分からない。私も民生委員になって12年だが、県では24年、30年という人がザラだという。若い人の話ばかりではなく、少しでも多くの方に状況を知ってもらいたい。市の職員も退職してから仕事があると思うが、民生委員にも協力してほしい。

■医療福祉部

特に市街地の井、長島あたりでなり手がないと聞いている。今年、職員の退職者説明

会に社会福祉課の担当職員が行き、退職したら民生委員になるように話をした。市としても定数を充足できるように頑張るので、引き続きぜひご協力いただきたい。

■議長

一通り御意見をいただいたが、他にあれば。

■委員

子育て支援について。来年から白米を支給してくれるとのことで、たいへんありがたい。毎朝の白米の用意は、小さな負担だが蓄積するので、園で提供していただけるというのは助かる。給食の無償化も、他の市ではやっていないことで、恵那市での子育てのメリットがあると思う。Ｕターンしてもらうきっかけにもなる。今後もよろしくお願いしたい。

■教育委員会

市全体で進めている子育て支援パッケージは令和 6 年から始めている。こども園でできることを考え、こういった内容にした。保育園の時代から何十年と、白米を持ってくるというのが慣例で、法律的にも「提供するのは副食だけ」というのが児童福祉法の時代からあったのでこうなっていたが、そこに着目してこの制度を作った。

これ以外に、幼児コースの預かりの時間を増やしたり、夏休みも有料だが受けるようにしたり、少しずつサービスを拡大している。来年度の支援パッケージに向けても、ご意見を聴きながら考えていきたい。

■農林部長

お米は、おいしい恵那市産のものを集めるので期待してほしい。

■委員

交通の観点では、他の委員もおっしゃったように、夜遅く恵那駅に着くとタクシーがなく、来るか来ないかも分からず待ち、30 分待って来ないので歩いて帰ということが私もある。巡回バスの取り組みも良いが、タクシーでも、フル活用していただければタクシーの利用者も運転手も対応できると思う。タクシーの運転手は高齢者ばかりになった。上手く回る仕組みができれば、夜遅くてもタクシーが運行できる。そこを考えてもらわないと難しいと思う。

例えば、名古屋に行くときは、どこかに車を置いてＪＲを使うと思うが、車のない人は駅から帰る術がない。そうすると、ＪＲはだめだから車で行こうということになり、ＪＲの利用者も減る。そういう負の連鎖がある。利便性を良くしてくれると良い。その施策も考えてほしい。

■事務局

タクシーについて。現在、交通事業者の人材不足が喫緊の課題になっている。バス、鉄道、タクシーも人手が足りない。夜はタクシーの台数が減っている。それも踏まえ、国では法律の規制緩和をしている。ライドシェアという白ナンバーでの移送のサービスもでき

るようになってきている。今後はそういうものも含めて検討したい。

毎年3月15日にJRがダイヤ改正する。バス、明知鉄道も、移送サービスの時刻に合わせて乗り継ぎがスムーズにできるように取り組んでいる。これを基準にさらに利便の増進に取り組む。

■議長

では、議事を終了する。

6. その他

- ・次期総合計画の策定について（資料NO.5）
- ・次回会議 令和7年8月頃の開催予定

■事務局

その他について説明する。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■事務局

本日は、長時間にわたり熱心な議論をありがとうございました。今年度の会議はこれで最後となる。次回は8月頃となる。詳細は改めて連絡する。来年度もよろしく願います。

7. 閉会

■事務局

最後に副会長から閉会のあいさつをお願いします。

■副会長

熱心な議論ありがとうございました。専門的な立場からの確な意見を出していただき会議が深まった。今日の会議では子育て支援の充実と若い世代の充実という2点が中心の話題だった。少子化、高齢化というだけでなく、どう乗り越えるかというとき、若い世代の流出を明確にすることが大事だということを勉強した。

感想だが、市政を担う方に2つお願いしたい。1つ目は、市民意識調査の活用。もう深掘りする必要があると思う。3ページ、「これからも今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合は、令和5年に比べて令和6年は若い世代が増えている。恵那市の中に住み続けたいと思った人も増えている。この設問の後に、「それはどうしてか」というのを加え

れば理由が分かる。毎年のルーティンで調査をするのではなく、もう少し深掘りすれば少しは先が見えると思う。来年度工夫してほしい。

2 つ目は、地方創生交付金の事業について。K P I、効果検証の手法で大変きちんとやってくれている。どこまで達成したかを明確にしたときに事業の見直しが行われる。市の事業についても、全部できなくてもK P Iのような手法、どこまで達成したかが重要。今日の会議でも令和 7 年度の主要事業の説明はあるが令和 6 年度の事業の成果の説明がなかった。やりっ放しにならず、どういう前進があったかをもう少し検証すると、もっと前進すると思う。

総合計画のスローガンも決まったので、20 年後に向けて進めていけるといい。

■事務局

本日はありがとうございます。これで閉会する。

〔 閉 会 〕